

第6学年 道徳科（人権）学習指導案

- 1 主 題 差別のない社会をめざして
人権の視点 2 - (2) -ア 差別と人権問題についての学習
道徳の内容項目 C (1 3) 公正、公平、社会正義

- 2 教 材 「たつの市部落差別解消推進条例」から考える
「たつの市部落差別の解消の推進に関する条例」、「たつの市人権尊重都市宣言」、
「部落差別解消推進基本計画策定にかかる調査」の一部を資料として活用

3 趣 旨

本学級の児童は、社会科の歴史学習や差別と人権問題についての学習を通して、部落差別をはじめとした様々な差別について学んできた。特に、部落差別は、世の中にある差別意識を利用し、日本社会の歴史的発展の過程で形成された身分階層構造に基づき、その支配を強化するためにつくられたものであることを学習した。さらに、差別にとらわれない生き方の素晴らしさについて学び、自分たちもそうありたいとする意欲を高めている。また、明治以降の部落差別についても、たつの市教育委員会作成の「部落史にかかる教材集」や、本校独自の自作資料等を使い、学びを深めてきた。しかし、同対法以後の法律「部落差別解消推進法」についてまだ知らず、差別を自分自身の問題としてとらえたり、差別のない社会の実現に向けて考えたりすることは十分とは言えない。

本教材は、たつの市が全国で初めて制定した「たつの市部落差別の解消の推進に関する条例」（2017、翌年4月施行）、「たつの市人権尊重都市宣言」（2006）、「部落差別解消推進基本計画策定にかかる調査」（2019）の人権意識調査の結果と考察の一部を抽出し、児童が社会における差別の実態について主体的に考えられるよう教材化したものである。調査によると、「人権尊重の社会とは言えない」と答えた人が約1割、「いちがいには言えない」と答えた人が約6割であった。また、上記の教材における自由記述からは、人権課題に対して見過ごしたり関心をもとうとしなかったりする立場の意見が見られ、無知や無関心、傍観も差別に加担する立場であることがとらえやすくなっている。一方で、差別のない社会をめざし、当事者意識をもって問題を解決していこうとする意見からは、差別をなくそうとする行動が明るい展望へと導くことに気付かせることができる。よって、本教材は、差別のない社会の実現に向けて行動する大切さについて考えるとともに、差別を自分自身の問題としてとらえ、解決しようとする意欲を高めさせることに適している。

指導にあたっては、これまでの人権学習についてまとめておいた掲示物を使い、本時の学習に入りやすくする。次に、事前に行った児童アンケート結果とたつの市が行った調査結果を比較し、市民が今でも差別が残っていると感じていることについて考えさせ、本時の課題を自分ごととしてとらえやすくさせる。その際、差別が残っている原因として無知や無関心が原因であることに気付かせる。その上で、「人権尊重都市宣言」の一部を紹介し、条例へとつなげていきたい。続いて、条例について話し合わせ、差別のない社会をめざして作成されたことや全ての人に与えられたものであることに気付かせる。さらに、調査結果の自由記述から差別をする、受ける側だけでなく、傍観する側の意識を変えていく必要があることに気付かせ、差別を自分自身の問題としてとらえさせる。そして、これまでの学習と関連させながら、わたしたちがめざす社会について意見交流させることで、差別を許さず解決していこうとする意欲を高めたい。最後に、自由記述から当事者意識をもって問題を解決していこうとする意見や自分たちも関わっている取組を紹介し、差別のない社会を築く一員であると意識をより高めさせたい。

4 人権の視点

今なお残る人権問題は、差別する側の意識や見方に起因する。人権尊重の視点に立って自分自身を見つめ正していくことが、差別を許さず行動する立場の人間形成へとつながり、差別のない社会を実現していくための基盤づくりとなる。

5 本時の目標

差別のない社会の実現に向けて、差別を許さずなくそうとする立場について考えることをとおして、自分自身の問題としてとらえ、解決していこうとする意欲を高める。

6 学習展開

児童の活動	指導上の留意点 (◇評価)	備考
<p>1 これまでの人権学習について振り返る。</p>	<p>○事前にまとめておいた掲示物を用いて、人権学習で学んだことを振り返り、本教材へとつなげる。</p>	<p>(全体)</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">わたしたちがめざす社会について考えよう</div>		
<p>2 たつの市の現状について考える。</p> <p>(1) 調査結果から</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「人権が尊重されている社会である」</p> <p>◇そう思う…27.2%</p> <p>◇いちがいいには言えない…60.4%</p> <p>◇そう思わない…11% ◇無回答…0.8%</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差別が残っていると感じている人が多い ・人権が尊重されていると感じている人が少ない ・人権について無関心 <p>(2) 条例から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部落差別は存在している ・差別のない社会をめざしている ・全ての人は尊重されなければならない <p>(3) 調査結果の自由記述から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無関心は差別を残したり新たな差別を生み出したりする ・自分には関係ないという考えでは差別はなくなる ・差別を自分自身の問題として考えなければならない 	<p>○人権意識調査の結果を提示し、自分たちのアンケート結果と比較させることで、人権が尊重される社会にするためにはどんなことが必要か考えさせる手立てとする。</p> <p>○人権が尊重されているとは「いちがいいには言えない」、「そう思わない」理由を考えることで、無知や無関心が原因であることに気付かせる。</p> <p>○「たつの市人権尊重都市宣言」の一部を紹介し、部落差別解消推進条例へつなげる。</p> <p>○条例から感じたことや思ったことを話し合わせ差別のない社会の実現を目的として作られたことに気付かせる。</p> <p>○条例は誰に出されたかを問うことで、すべての人を対象として出された条例であることを押さえ、自分自身の問題であるという意識を高めさせる。</p> <p>○調査の自由記述の中で、傍観する側や無関心の人々の意見について紹介し話し合わせることで、差別する側や傍観者の意識を変えていく必要があることに気付かせる。</p> <p>○無知や無関心は偏見や差別につながることに気付かせ、差別を自分自身の問題としてとらえさせる。</p>	<p>(全体)</p> <p>スライド</p>
<p>3 わたしたちがめざす社会について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで協力する ・決めつけや偏見をもたない ・差別を許さず、正しい判断ができる ・まわりに流されず、自分で判断できる ・相手の立場に立った考え方ができる ・正しい判断ができる 	<p>○自分はどんな社会にしていきたいかをワークシートに書かせることで、身の回りの差別や不合理を見逃さず、立ち向かおうとする意欲を高める。</p> <p>○「いいほノート」を使い、これまでの学習と結び付けながら自分の考えをまとめさせ、全体で意見交流をする。</p> <p>◇差別のない社会の実現に向けて、差別を許さずなくそうとする立場について考えることを通して、自分自身の問題としてとらえ、解決してこうとする意欲を高めることができたか。</p>	<p>(個)</p> <p>↓</p> <p>(全体)</p> <p>ワークシート いいほノート</p>
<p>4 本時の学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差別解消に向けて、これからはしっかりと学んでいきたい ・人権課題に対して無関心ではなく差別をなくしていく行動を心がけたい 	<p>○自由記述から当事者意識をもって問題を解決してこうとする意見を紹介し、自分たちだけでなく、たくさんの人たちがよりよい社会をつくらうとしていることを感じとらせる。</p> <p>○中央大会や揖保盆踊り大会に参加していることを振り返らせ、自分たちも差別をなくす取組に参加していることに気付かせ、差別解消への意欲を高めさせたい。</p> <p>○学習を振り返り、ワークシートに書かせることで、本時のまとめとする。</p>	<p>(個)</p> <p>↓</p> <p>(全体)</p> <p>ワークシート</p>

